

# 四尾連湖における陸水学的研究

— 2004 年度の理化学調査結果から —

吉田 雅彦<sup>1)</sup> 風間ふたば<sup>2)</sup>

キーワード：四尾連湖、陸水学的調査、理化学調査、2004 年度

## はじめに

山梨県西八代郡市川三郷町（平成17年10月1日に市川大門町、三珠町、六郷町の3町が合併により誕生）にある四尾連湖（海拔高度：880m、湖岸線長：1.04km、面積：0.058km<sup>2</sup>、最大深度：10.9m、平均深度：6.5m、35° 31′ N, 138° 31′ E）は、山梨県内にある六つの自然湖沼のうちの一つで、御坂山地に属する大島山（標高 1118 m）西南にあり、その成因は陥没湖といわれるが、地回りによる塞止湖という説<sup>1)</sup>もあり定かでない。

古くは富士五湖（本栖湖・精進湖・西湖・河口湖・山中湖）、富士山南麓の浮島沼、北方の明見湖とともに富士八湖と称され、富士八湖廻りの一霊湖で、神秘麗湖あるいは志比礼湖ともいわれていた。

本湖の湖岸線は非常に単調で東西方向に少し長めの楕円形である。湖の東岸に2軒の人の居住している建物があるのみで、その近辺以外はほとんどすべて湖岸線近くにまで樹木がせまっている。湖沼型は貧栄養湖に近い中栄養湖である。<sup>2) 3)</sup>

本湖には流入河川も流出河川もなく、湖水量は主として地下からの湧水で維持されていると思われる、毎年1～2月ごろには全面結氷する。

四尾連湖は1964年に山梨県立自然公園に指定されたが、電気もなく徒歩により訪れることしかできなかったため、1970年代前半まではほとんど地元の人以外その存在さえ知られない湖であった。1975年頃より道路が開通し観光設備が整い、

さらに旅行雑誌等に紹介されてからは観光客が訪れるようになった。夏期にはキャンプや水遊びの場として、冬期にはスケート場として賑いを見せていたが、近年では、アウトドアブームによるキャンプやコイ・フナ・ワカサギの釣り場となっている。したがって1980年代まで、四尾連湖についての陸水学的研究は、田中<sup>2)</sup>や栗谷川ら<sup>4,7)</sup>の研究があるのみであった。

我々は本湖における陸水学的調査を1994年から開始し、本年度で11年間データを蓄積している。この中で得られた知見<sup>3) 8-25)</sup>は、四尾連湖の状況を知るための重要な資料となるであろう。

本報告では、四尾連湖定点における定期調査・研究の一環として得られた湖水の理化学的基礎データを、2004年4月から2005年3月までの期間に限って報告する。

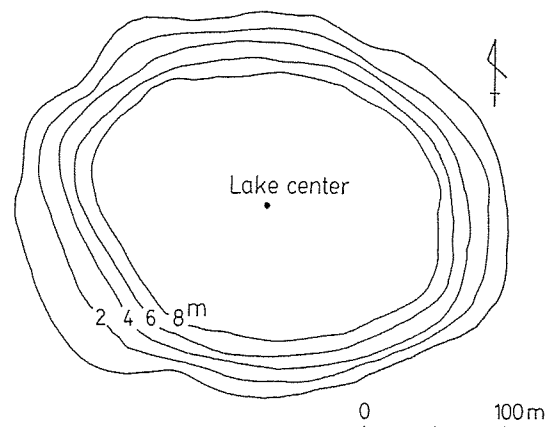


図1 四尾連湖調査地点概要

(所 属)

1) 山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科

2) 山梨大学大学院医学工学総合研究部 工学学域 社会システム系

調査方法

調査は2004年4月から2005年3月まで、2004年の9月(天候不順により調査できず)および2005年の1・2月(結氷等により調査できず)を除いて毎月1回、湖中央部の定点(湖心)において行った(図1)。調査項目は、透明度・溶存酸素量・水温・栄養塩類(全窒素量・全リン量)・水中懸濁物量・pH・電気伝導度(導電率)について行った。透明度についてはセッキー円板を用いて測定し、溶存酸素量と水温については1mお

きに測定を行った。その他の項目については、表層(水面から10~20cm)・2m・6m・底層(湖底泥から約0.5m上層の水)の各層についてバンドン式採水器を用いて採水し、得られた試料を直ちに実験室に持ち帰り、前処理をした後に、30℃で冷凍保存し、後日まとめて分析を行った。採集した試料の分析は常法<sup>26)</sup>により行った。なお、一部の分析はフローインジェクション法<sup>27)</sup>で行った。

表1 観測時の定点の水深・水温(WT)・溶存酸素量(DO)の年間測定値

年月日	2004.4.25		5.30		6.27		7.17		8.22		9	
水深	9.3		9.4		9.4		9.3		9.2		-	
透明度	7.8		6.8		8.2		9.3		4.8		-	
測定水深	WT	DO	WT	DO	WT	DO	WT	DO	WT	DO	WT	DO
0.0	14.0	8.3	21.1	8.3	23.7	6.6	27.0	6.4	26.1	6.4	-	-
1.0	14.0	8.2	20.4	8.4	23.7	6.6	27.0	6.4	26.1	6.4	-	-
2.0	14.0	8.1	20.2	8.4	23.6	6.6	27.0	6.4	26.0	6.4	-	-
3.0	13.9	7.9	19.9	8.4	23.6	6.6	26.9	6.4	26.0	6.4	-	-
4.0	13.8	7.6	19.4	8.4	23.4	6.6	26.9	6.5	26.0	6.5	-	-
5.0	13.5	7.4	18.6	8.3	23.1	6.7	26.7	6.5	26.0	6.5	-	-
6.0	11.9	7.5	17.5	7.6	22.3	6.7	25.0	7.1	26.0	6.5	-	-
7.0	11.3	7.4	16.2	5.6	20.2	7.2	23.4	7.3	26.0	6.5	-	-
8.0	10.9	6.4	15.0	2.9	18.5	6.4	21.8	6.8	25.9	6.1	-	-
9.0	10.8	6.1	14.5	1.6	17.8	4.1	21.0	6.2	23.8	0.2	-	-

年月日	10.17		11.21		12.19		2005.1.		2		3.24	
水深	10.5		10.2		9.8		-		-		9.4	
透明度	3.3		4.2		4.2		-		-		4.3	
測定水深	WT	DO	WT	DO	WT	DO	WT	DO	WT	DO	WT	DO
0.0	17.9	7.3	12.8	8.0	8.5	9.3	-	-	-	-	6.6	10.8
1.0	17.9	7.3	12.8	8.0	8.5	9.3	-	-	-	-	6.4	10.9
2.0	17.9	7.3	12.8	8.0	8.5	9.3	-	-	-	-	6.4	10.9
3.0	17.9	7.3	12.8	8.0	8.5	9.3	-	-	-	-	6.4	10.9
4.0	17.9	7.3	12.8	8.0	8.5	9.3	-	-	-	-	6.4	10.9
5.0	17.9	7.3	12.8	8.0	8.4	9.2	-	-	-	-	6.3	10.8
6.0	17.9	7.3	12.8	8.0	8.5	9.2	-	-	-	-	6.3	10.7
7.0	17.9	7.3	12.8	8.0	8.4	9.2	-	-	-	-	6.3	10.5
8.0	17.9	7.4	12.8	8.0	8.4	9.2	-	-	-	-	6.3	10.4
9.0	17.8	7.4	12.8	8.0	8.4	9.2	-	-	-	-	6.3	10.3
9.5	-	-	-	-	8.4	9.2	-	-	-	-	-	-
10.0	17.8	7.4	12.8	7.9	-	-	-	-	-	-	-	-

単位:水深(m)・透明度(m)・水温(℃)・溶存酸素(mg/l)

表2 pH・導電率(EC)・全窒素(TN)量・全リン(TP)量・水中浮遊懸濁物(SS)量・クロロフィルa(chl-a)量の年間測定値

項目	測定水深	年月日	2004.4.25	5.30	6.27	7.17	8.22	9	10.17	11.21	12.19	2004.1	2	3.24
pH	0		6.8	7.3	7.1	7.1	7.1	-	7.3	7.1	7.1	-	-	7.7
	2		6.9	7.4	7.5	7.4	7.3	-	7.4	7.2	7.3	-	-	7.6
	6		6.8	7.5	7.4	7.2	7.3	-	7.5	7.2	7.4	-	-	7.7
	B		7.2	7.3	7.1	7.0	6.9	-	7.4	7.3	7.3	-	-	7.7
EC (μS/cm)	0		44	42	42	42	46	-	50	52	51	-	-	48
	2		44	42	42	45	46	-	49	53	51	-	-	48
	6		43	43	42	44	48	-	50	53	52	-	-	48
	B		44	45	50	52	59	-	50	53	52	-	-	48
TN (mg/l)	0		0.243	0.174	0.175	0.144	0.166	-	0.183	0.109	0.160	-	-	0.177
	2		0.176	0.222	0.145	0.130	0.202	-	0.222	0.141	0.178	-	-	0.210
	6		0.227	0.190	0.146	0.141	0.196	-	0.202	0.133	0.162	-	-	0.208
	B		0.224	0.207	0.176	0.151	0.246	-	0.214	0.155	0.163	-	-	0.195
TP (mg/l)	0		0.006	0.004	0.004	0.007	0.004	-	0.007	0.008	0.007	-	-	0.005
	2		0.005	0.004	0.006	0.007	0.005	-	0.008	0.009	0.007	-	-	0.005
	6		0.007	0.004	0.004	0.004	0.005	-	0.008	0.008	0.011	-	-	0.011
	B		0.008	0.007	0.008	0.007	0.006	-	0.007	0.010	0.011	-	-	0.005
SS (mg/l)	0		0.9	0.6	0.8	0.5	1.8	-	2.4	2.5	2.1	-	-	1.2
	2		1.0	0.9	0.9	0.5	2.1	-	2.9	3.0	2.3	-	-	1.8
	6		1.4	1.4	0.9	0.6	1.9	-	3.2	2.2	2.4	-	-	2.2
	B		2.6	3.8	1.8	1.4	3.4	-	4.7	2.1	2.5	-	-	2.2
chl-a (μg/l)	0		0.7	1.1	1.4	1.0	3.5	-	3.4	4.6	4.0	-	-	1.2
	2		1.0	1.8	1.8	0.6	4.8	-	4.4	5.1	4.3	-	-	2.8
	6		1.3	3.2	2.0	0.8	2.4	-	6.3	4.9	4.2	-	-	3.8
	B		3.0	8.5	4.0	2.3	5.3	-	3.4	4.3	4.0	-	-	3.1

B:湖底より約0.5m上付近

## 結果

表1に観測時の定点の水深・透明度・水温(WT)・溶存酸素量(DO)の年間測定値を、表2にpH・導電率(EC)・全窒素(TN)量・全リン(TP)量・水中浮遊懸濁物(SS)量・クロロフィルa(chl-a)量の年間測定値を示した。

## 謝辞

本調査を実施するにあたり、ご協力をいただいた市川三郷町四尾連湖、龍雲荘の皆様深く感謝いたします。

## 引用・参考文献

- 1) 田中 収(1987):山梨県地学ガイド. 108-109, 176, コロナ社
- 2) 田中正明(1991):日本湖沼誌. 56, 363-365, 名古屋大学出版会
- 3) 吉田雅彦、吉澤一家、平林公男(1995):四尾連湖における陸水学的研究(予報), 山梨県立女子短期大学紀要, 28, 147-155.
- 4) 栗谷川 晃、麻生行二(1978):四尾連湖(山梨県)におけるプランクトンの生産に関する研究, 昭和52年度文部省科学研究費補助金研究報告書
- 5) 栗谷川 晃、麻生行二(1979):湖沼の底棲動物についての研究, 昭和53年度文部省科学研究費補助金研究報告書
- 6) 栗谷川 晃(1981):四尾連湖(山梨県)におけるAphanothece stagninaの分布と推移について, 陸水学雑誌, 42(3), 180-183.
- 7) 栗谷川 晃(1981):山梨県四尾連湖の観光化による底生生物の変化, 水温の研究, 25(4), 24-27.
- 8) 吉田雅彦、平林公男、吉澤一家(1998):河口湖における水位の変動と降水量の関係, 山梨県立女子短期大学紀要, 31, 79-84.
- 9) 荒河 尚、吉田雅彦、平林公男(1996):四尾連湖における動物プランクトン群集の季節的変動(速報), 山梨県立女子短期大学紀要, 29, 103-106.
- 10) 吉田雅彦、平林公男、吉澤一家(1994):四尾連湖の陸水学的研究(予報), 日本陸水学会甲信越支部会報, 20, 45.
- 11) 吉田雅彦、吉澤一家、平林公男(1995):四尾連湖の陸水学的研究(第2報)-1994・1995年調査から, 日本陸水学会甲信越支部会報, 21, 39.
- 12) 吉澤一家、吉田雅彦、平林公男(1997):四尾連湖の植物プランクトンの季節変化について, 日本陸水学会甲信越支部会報, 23, 8-9.
- 13) 吉田雅彦、高橋一孝、平林公男(1998):四尾連湖の魚類について, 日本陸水学会甲信越支部会報, 24, 20.
- 14) 有泉和紀、荒河 尚、堀内雅人、吉澤一家、吉田雅彦、平林公男(1998):四尾連湖の水質変化(1994.4~1997.3), 日本陸水学会甲信越支部会報, 24, 19.
- 15) 風間ふたば、有泉和紀、吉田雅彦、吉澤一家、平林公男(1998):河口湖および四尾連湖水の溶存有機物(予報)-弱塩基性陰イオン交換セルロース吸着画分の経月変動-, 日本陸水学会甲信越支部会報, 24, 17-18.
- 16) 風間ふたば、有泉和紀、吉田雅彦、吉澤一家、平林公男(1999):湖水中のDOC濃度の季節変動は何をいみしているのか-河口湖と四尾連湖との比較調査結果から-, 日本陸水学会甲信越支部会報, 25, 9-10.
- 17) 有泉和紀、吉澤一家(1999):四尾連湖の水草水平分布, 日本陸水学会甲信越支部会報, 25, 20.
- 18) 風間ふたば、有泉和紀、吉田雅彦、吉澤一家、平林公男(2000):河口湖および四尾連湖中の溶存有機物(続報), 日本陸水学会甲信越支部会報, 26, 22.
- 19) 有泉和紀、吉澤一家(2000):四尾連湖の水草水平分布(続報), 日本陸水学会甲信越支部会報, 26, 24-25.
- 20) 平林公男、吉澤一家、有泉和紀、吉田雅彦、風間ふたば(2002):山梨県四尾連湖における底生動物群集の季節変化と年変動, 日本陸水学会第67回講演要旨集, 96.
- 21) 風間ふたば、吉澤一家、有泉和紀、吉田雅彦、平林公男(2002):オオクチバスの繁殖と水質変動-山梨県四尾連湖の場合-, 日本陸水学会第67回講演要旨集, .
- 22) 平林公男、荒河尚、吉田雅彦、風間ふたば、吉澤一家、有泉和紀、長澤和也(2002):自然湖沼における鯰尾類チヨウ(Argulus japonicus Thieie)の浮遊個体の動態について-四尾連湖を事例にして(予報), 日本陸水学会甲信越支部会報, 28, 5-6.
- 23) 有泉和紀、吉澤一家、荒川尚、風間ふたば、吉田雅彦、平林公男(2003):四尾連湖の長期観測結果~透明度, 水温, 溶存酸素~, 日本陸水学会甲信越支部会報, 29, 69-70.
- 24) 吉澤一家、有泉和紀、荒川尚、風間ふたば、吉田雅彦、平林公男(2003):四尾連湖の長期観測結果~植物プランクトン~, 日本陸水学会甲信越支部会報, 29, 71-72.
- 25) 平林公男、荒川尚、吉田雅彦、風間ふたば、吉澤一家、有泉和紀、長澤和也(204):自然湖沼で観察された鯰尾類チヨウの浮遊個体, 日本陸水学会第69回講演要旨集, .
- 26) 厚生省生活衛生局水道環境部(1993)上水試験方法・解説(1993年度版), 日本水道協会

- 27) 第3回フローインジェクション分析講習会テキスト  
(1999) 日本分析化学会フローインジェクション分析  
研究懇談会編

# A Limnological Study on Lake Shibire

— A Chemical Study in 2004 —

YOSHIDA Norihiko, KAZAMA Futaba

Key words : Lake Shibire, Limnological Study, Chemical Study, 2004